

臨海工業開発具体化への歩み

報 廣

た
か
ま

発行所
長浜町役場
愛媛県喜多郡

印刷所愛媛協同印刷KK

号外

経過を
ふりかえる

長浜町臨海工業開発事業
がいよいよ具体化へ第一歩
をふみ出したことはすでに
お伝えしたとおりです。し
かしながら今までお知らせ
してきたことは、すべて基
本的な構想や計画に立った
考え方が主となっております
したので、事業着手を前に
して今まであまりふれてい
なかった具体的な経過の内
容をふりかえってみましょ
う。

工業用地の埋立て造成と
企業の誘致とは、本来性質
の異った仕事ではあります
が、企業の誘致を前提とし
ないで土地ばかりを造成す

る企業がなければ莫大な
土地への投資は町や町民を
苦しめる結果にしかなりま
せん。従って開発の第一段
階は土地のない所へ土地を
造成するというものであつ
ても、その計画は誘致する
企業との接しよくを同時に
行なう必要があつたわけで
す。

しかしながらこのような
民間の企業との問題は種々
雑多な複雑な事情がからん
で参りますので、簡単に個
々具体的な接しよくの内容
を公表するわけには参りま
せん。このため一般に種々

外 号

の風説や憶測もとんだようでありますが、これらの接しよくや交渉はあくまで用地造成計画にたいする前哨的作業であるに過ぎず、われわれが常に申してきておりますように、本当の企業誘致は町民大多數の理解と賛成の上で正式に決められなければなりません。このような正式決定を経た後、企業と町との間に誘致と立地についての交渉が成立してはじめて公表できる段階に入ったといえると思うのです。

このような見地から今までに接しよくしたり検討した企業は十数社に及んでおります。このような中でわれわれは真に町民の幸福につながる企業を選び、これが確かにきてくれるであろうという見込みと併せて初めて土地造成の具体的スケジュールを組むことがで

きるわけです。そこで前にもお伝えしたように、地元の漁業補償の問題、埋立の認可申請の問題、この仕事を實際に運営する開発公社の設立の問題など、重要な一連の作業を一気に推進して参りました。そしていよいよ目に見える九万坪の土地の造成を今、まさに着手しようというところまでこぎつけて参ったのであります。この新段階を迎えてわれわれはお互に次にくるべきものをじっくりと考えてみようではありませんか。

の生物に悪影響をおよぼす公害の発生は、現代における最大の害悪になるうとしています。企業との接しよくに当たっても、その他あらゆる調査研究についてもわれわれは絶えずこの公害に細心の気を配って参りました。新聞やテレビでは少し先回りしているのをお気づきの方もあらうと思いますがこれまで交渉のあった企業の中で誘致の候補にあってもよいと思われる某有力企業の黒煙電極製造工場の例を紹介してみよう。

これは手つとり早く申し

のにより多くの焦点があてられていくことは当然といえましよう。

この他造船所とか各種の化学工業など、臨海性を必要とし、また、工業用水を多量に必要とする企業の多くが立地を希望し、あるいは検討研究を進めています。しかしながらいかなる企業にせよ、一旦企業が立地定着してしまつてからではない問題がおこつたという時にことは面倒になります。

一番には最も安全を確認できる企業を選んで誘致すること、その次には今後悪影響が仮りに発生するような

つては今一つ重大な意味があるのです。と、いうのはこれまで長浜の町は狭い所、目白押しにたくさんの人々が住み、いろいろな仕事をやってきておりますので何をやるにしても土地の余ゆうがありません。したがつて多くの人々が望むような都市計画事業も手のつけようのないありさまであります。そこでこの九万坪の一部は地元地場産業のうち比較的規模が大きくて移転可能なものはこの新造成地に移つてもらい、その余ゆうのできた土地をこれまで解決のつかなかつたいろいろ

これまでの二年余にわたる歴史的な大事業計画推進にあたっては、最もうれしかったことは、この地域においても非常に難関とされている漁業補償問題について長浜町漁業協同組合および町内漁民の方々が、深いご理解をもつてきわめて短時間の間に補償協定を成立させてくださったことです。このご協力にたいしては一生忘れることのない感激をもつてお礼を申し上げます。今後更に本格的開発に進んで参りますが、第一の関係当事者となります。漁業関係者はもちろんのことその他各種各様の関係問題の発生について、全町民一致のお力添えがぜひとも必要です。

誘致企業の展望と
造成地利用計画

希望の新造成地にどのような企業を誘致し、また、どのような立地計画を進めていくのか。これこそ私どもの最も関心を持ち、また十分に将来を考えて誤りのないようにしなければなら	ない最も重要な課題であります。一九七〇年代は、企業優先でなく、住民の生活優先をまず信条として掲げなければならぬからです。この計画の当初において、石油コンビナートが第一の
話題にのぼり、石油企業の内蔵している亜硫酸ガス公害が必然的に皆さんの念頭に去来したことは記憶に新たなことであります。	その他どのような企業であっても、人間およびその他

の一番大きなエネルギーの源は電力です。その他に焼成用に少量の重油や、冷却用の工業用水も使用しますが、大気を汚染するほどの有害ガスや、水質を汚濁する廃液などの影響はほとんどなくて、醗酵を助ける菌類の間たって有害なガスを吐き出しているのですから人が一箇所にたくさん集まれば空気は濁ってきます。車の往來がはげしくなれば排気ガスもふえてきます。産業廃棄物だけでなく、人間の

のないうち、最も効率的に利用する配慮が必要です。そのため町内の各企業の方々にもこの際心気一転、多大のご協力を願いたいと思っております。さらに今後この沖合に本格的な用地造成が進んで参りますと、今

感謝と

工業資本の投資と生産の拡大は直接的に町財政を健全で永遠なものに保持したいと思えます。

用地造成のスケジュール

今回回のレベルで行なう用地の埋立て造成は約九万坪。これまでの経過と今後のスケジュールを次に紹介しておきます。

(一)六月二十三日 漁業協同組合にたいし漁業補償交渉開始

(二)六月二十九日 長浜町開発公社設立委員会

(三)六月三十日 県知事にたいし長浜町開発公社設立許可申請

(四)七月七日 県知事にたいし公有水面埋立認可の申請を行なう。

(五)八月三日 開発公社設立許可

(六)八月八日 海面埋立てにつき県知事から地元議会にたいし意見を求める臨時議会を審議するため臨時議会を招集、全会一致でこれに異議ない旨の答申議決がなされた。

(七)八月十三日 開発公社役員会事業実施の基本計画を決定

(八)八月十四日 開発公社設立登記、漁業補償交渉正式に妥決成立。五

千万円で今回埋立分にたいする補償額とする協定書が交換された。

(九)八月十九日 埋立工事につき指名業者に対する現場説明

(十)八月二十五日 埋立工事入札予定

(十一)九月一日 第一、第二第三工区約三万六千坪の埋立工事着工予定

(十二)十二月三十一日 第一工区竣工予定

(昭和四十六年四月一日)

第四、第五工区約五万

四千坪埋立て着工予定
(国)同年五月三十一日 第二、第三工区竣工予定
(国)同年十二月三十一日

工区の区分と面積

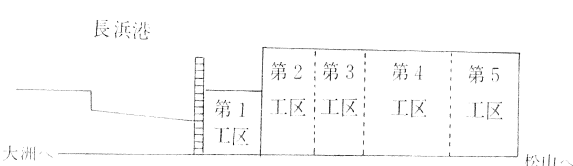
第一工区 現在の築地の北防波堤に接続する部

第二工区 第一工区から北に続く部分約一万三

第三工区 約一万坪
第四工区 約三万一千坪

第五區 約二萬三千坪

工区略图



感謝と期待

そうしてや
がてその成果
としてわれわ
れ町民の上に
もたらされる
であろう直接
間接の利益を
健全で永遠な
ものに保持し
たいと思いま
す。

うるおし、間接的には交通運輸その他関連産業の発展をうながし、雇傭の増大、消費購買力の増大が商業サービス業等第三次産業の躍進を裏づけてくれます。

それと同時にわれわれは南予の玄関口としての重大な使命のあることをこの際新たに認識し、単に長浜町一町でなく、今回指定を受けた大洲、八幡浜地区、喜多、西宇和東宇和三郡にまたがる広域市町村圏の表玄関口としての使命をも併せなければならぬと思います。これらの地域の住民全体の期待もこの事業の中に包みされていることをかみしめながら、最も理想的な生産地帯を築きあげようではありませんか。